日本顕微鏡歯科学会第 13 回学術大会事後報告

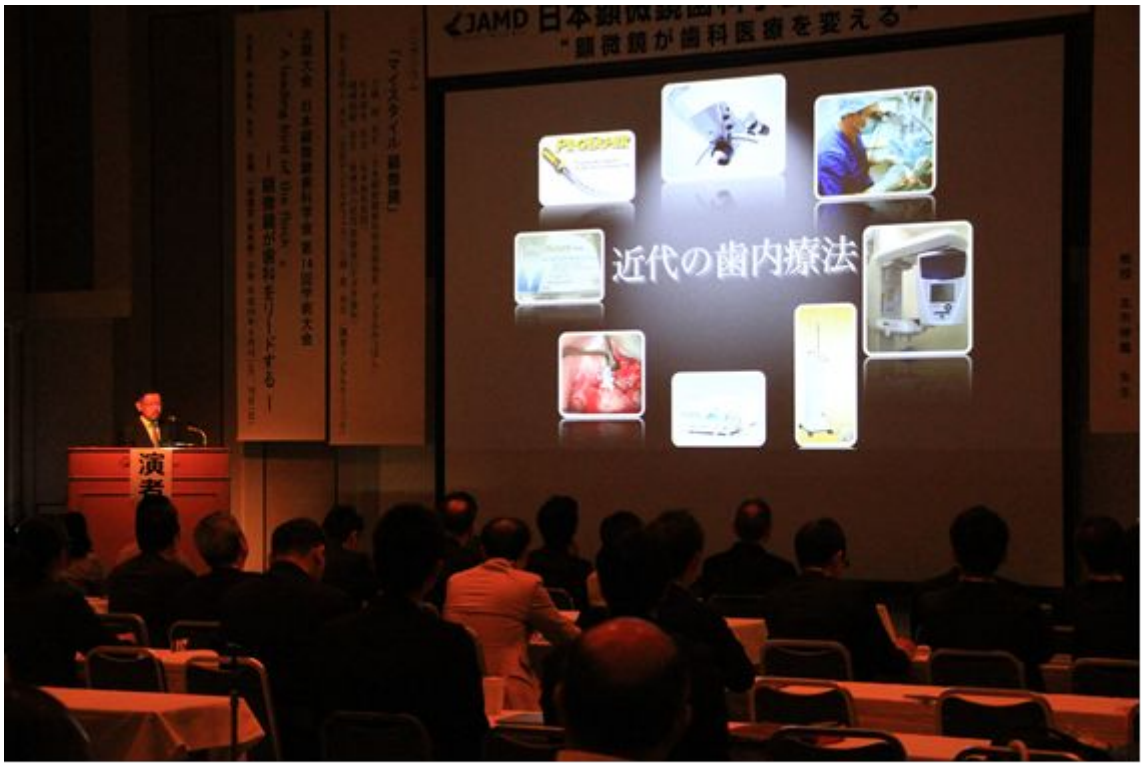
日本顕微鏡歯科学会第 13 回学術大会が、平成 27 年 4 月 23 日（土)、24 日（日）の 2 日間にわたり、“ 顕微鏡が歯科医療を変える ” を大会テーマに掲げ、北海道札幌市のニューオータニイン札幌を会場に開催いたしました。
今年の札幌の春は例年よりも雪どけが早く、穏やかな気候のもと滞りなく盛会裏に終了することができたのも、関係各位のご協力の賜物と感謝申し上げます。
今次の保険診療報酬改定では、新たに歯内療法領域において顕微鏡歯科加算が新設されるなど、歯科界でもマイクロスコープへの関心は高まってきています。
当学会の会員数も年々増加しており、今大会中に 1,000 人を超えたと聞きました。

1 日目

大会初日、川上智史大会長が開会に先立ち、先日の熊本地震により被災された方々に黙祷を捧げ、大会が始まりました。

開会式後、本大会テーマの「顕微鏡が歯科医療を変える！」と題した坂東　信実行委員長の基調講演においては、自分の臨床ケースを交えて、歯科治療の発展にはマイクロスコープが欠かせない現状と、この大会 2 日間の概要を述べら

れました。



続いて学会長講演では辻本恭久先生が「日本顕微鏡歯科学会の歩み」として、当学会の成り立ちから、これまでの歴史とエピソードをお話になりました。

昼休みには、ランチョンセミナーとして、高田光彦先生（協賛：株式会社モリ

タ)「成功する直接覆髄　with　BioMTA セメント」と松永健嗣先生（協賛：メディア株式会社)「医院の差別化・ブランド化のために、何をどう患者に解りやすく簡単に伝えるか？増え続けるデジタルデータ「口腔内写真、動画、レントゲン・CT 画像、歯周検査、自費契約書、etc」の一括管理・活用法。当院が実践する「患者コミュニケーションシステム・ビジュアルマックス」活用術が開催され、大勢の受講者で会場は埋め尽くされました。
午後からは特別講演Ⅰとして、北市伸義先生（北海道医療大学個体差医療科学センター医科部門教授眼科学分野）が「眼から考える紫外線と青色光の影響」と題して現代社会人はもちろんの事、マイクロスコープや LED などの導入に伴い歯科診療室内で増え続けている紫外線と青色光の影響やその対策など、これから日々の日常や診療においての有益な情報について述べられました。

続いて一般口演、9 演題の口頭発表が行われました。
その後､特別講演Ⅱにおいて BioMTA セメントの開発者である Jun　Sang　Yoo 先生（ソウル大学教授）が『10years　long　term　clinical　outcomes　of Biofiffing　&Rationale」と題して、BioMTA セメントにおける 10 年経過症例を発表されました。

その後、ポスター討論と認定審査用症例編集検討会が行われました。
今大会から初めてのポスター発表でしたが 17 題と多く、その内容も多種多様、且つ写真などを多用したポスターが多く見受けられました。これらのポスターは大会期間中 2 日間掲示されました。

その後、懇親会が行われ、会員や賛助会員の方々が大勢集まり、意見交換、歓談など盛会に終了しました。

2 日目

　この日は一般口演 9 演題により始まりました。

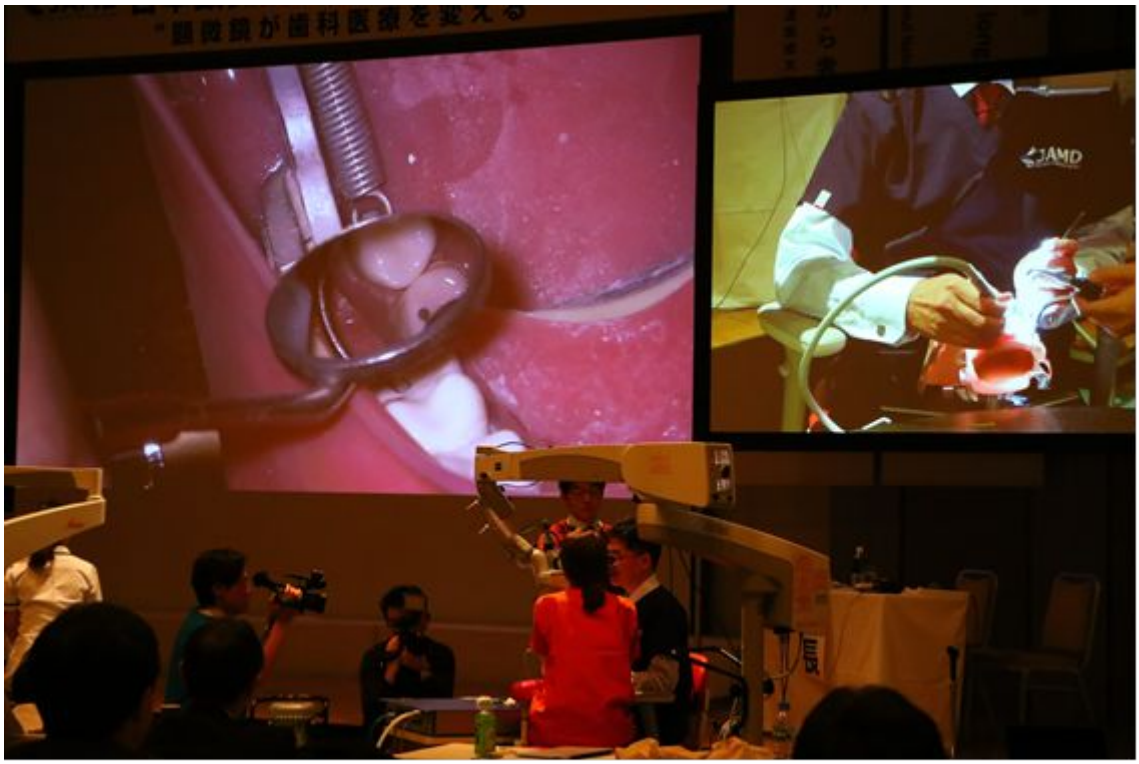
その後、第 12 回学術大会で大会長を受賞された辻本真規先生（長崎大学医歯薬学総合研究科齲蝕学分野）の受賞記念講演、「下顎大臼歯 C-shaped root canal に対する Micro endodontic therapy」においては、日本人に多い樋状根に対する解剖学的分析、治療へのアプローチなどを述べられました。

　次に会場を移動してテーブルクリニックが行われました。
稲本雄之先生「生活歯髄を有する歯内歯に発症した根尖性歯周炎様疾患（第 2 報）」、淵上了介先生「システマティックなミラーユースによる下顎歯の治療についての考案」、木ノ本喜史先生「支台築造除去のためのダブルドライバーテクニック&ダブルバイブレーションテクニック」の 3 題が行われました。

昼休みには伊藤修一先生（協賛：株式会社松風）「S-PRG フィラーのバイオアクティブ効果とそれを応用した歯科治療への可能性」と坂東　信先生（協賛：デンツプライ三金株式会社）「ゴールドテクノロジーを応用した根管形成とガッタコアピンクの紹介」のランチョンセミナーが開催されました。

毎回ランチョンセミナーは人気が高く、両日ともにランチョンセミナーのチケット配布には朝から行列ができるほどの人気でした。

午後からは、シンポジウム「マイスタイル顕微鏡」三橋　純先生、松本邦夫先生、磯崎裕騎先生の 3 人のシンポジニストによるコラボレーション講演が行われました。会場にそれぞれの実際の診療環境を再現し、使用機材や三者三様の治療ポジションなどを解説、発表されました。当学会らしく、ライブ感に溢れた画期的な発表スタイルに会場は、熱気に溢れました。



すべての発表の終了後に総会と評議員会が開かれ、滞りなく終了しました。

引き続き行われた表彰式、閉会式では、一般演題の中から長尾大輔先生「根尖よりガッタパーチャが漏出した上顎左側第 2 大臼歯への再根管治療」が大会長賞に選出され、大会は終了しました。

当会の特色ともいえますが、若く、柔軟で斬新な企画が今年も行われました。
プレカンファレンスの開催や早朝ランニング、と当大会初企画の大会限定オフィシャルスクラブ販売です。
今年のプレカンファレンスは、夕方に予定されている Yoo 教授の講演会まで、

参加者全員で小樽余市の観光バスツアーを行い、会員間の親睦を図るという企画で、事前登録においても参加者のキャンセル待ちがでるほどの人気でした。

毎年恒例になってきた有志を募っての早朝ランニングにおいても、今年は 2 日間の両日開催で、参加者は春の北海道の朝を満喫されたようでとても好評でした。

今大会の 1 か月前に発表となったサプライズ企画として、学会のオフィシャルスクラブを大会期間中のみ、販売するという企画。国内の学会では前例がなく、当学会ならではの企画だったと自負しています。最終的な販売枚数は 300 枚を超え、参加者の中にはこれを楽しみに来られた方もいて、お土産に複数枚購入される姿も見られ、とても好評でした。

こういった本大会のほかに行われる企画や大会で知り合った会員間の交流などにより、当学会らしい会員間の距離が近く、非常に仲のいい学会が運営されているのだと思います。当学会の学術大会は、マイクロスコープを通じて、この先の将来の歯科医療について、見つめている方向性が同じ仲間との交流の場になっているのではないでしょうか。
“ 顕微鏡が歯科医療を変える ”というテーマのもと、当学会の会員は常に若く、多方面において柔軟で、斬新な発想において活躍されることが期待される大会となりました。

なお、今大会の参加者数は 338 名（会員：254 名、準会員：21 名、非会員：63 名）、その他学生や研修医などの無料参加者も多数参加して頂き、誠に有難う御座いました。

（文：プレカンファレンス実行委員長　中脇禎輝）